

■ 部局ニュース

韓国ソウル大学校言語学科との合同シンポジウムを開催

6月13日（金）、本学の戦略的国際パートナー校である韓国ソウル大学校（SNU）の言語学科教員8名が来訪したのに合わせ、文学研究院言語科学研究室との合同シンポジウムが開催されました。SNU言語学科の強い希望を受け、今後の発展的学科連携のキックオフとして開催される運びとなったシンポジウムには、学生を含め35名程が参加し、活発な質疑応答がなされました。

シンポジウムは、受入責任教員の藤田 健教授の司会で始まり、SNUからはジェイムズ・ワン准教授が「複数レベルの知覚統合：日本語の高母音挿入

の場合」について、北大からは佐藤知己特任教授が「アイヌ語の構造概観：音韻論、語形成、統語論」について講演を行い、両校の教員や大学院生の関心を集め、アイヌ語のイントネーションから、ツングース語の専門家・津曲敏郎名誉教授（故人）による研究成果を踏まえたものまで多くの質問やコメントが投げかけられました。

和やかな昼食会の後には、高橋 彩国際担当理事・副学長、川端康弘文学研究院長への表敬訪問もあり、初めての両校の言語学科連携は鮮やかな幕開けとなりました。SNUのワン准教授か

らは「日本国外には出ないような日本語の文献、アイヌ語を含めた北方圏言語の希少資料があり、研究連携において大いに魅力的」であることが、ソンホ・ナム教授からは「自身の退官は迫っているが、次世代の言語学科教員たちの研究関心における親和性と相補性を踏まえ連携を進めていければ」との見解が示されました。令和8年度には北大言語科学研究室教員のSNU言語学科訪問が想定されています。

（文学研究院、国際連携推進本部）



シンポジウム参加者



ワン准教授



佐藤特任教授



フライヤー